

令和元年度 学校関係者評価

評価基準 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

I 教育理念・教育目的

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 教育理念・教育目的は、養成する理学療法士、作業療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している	3.0	教育理念・教育目的は、学生が卒業時点において持つべき資質を明示しており、学生便覧の他、パンフレット等の配付物やホームページに載せ、各種説明会で説明している。学生便覧には3つのポリシーが記されており、学生には各種オリエンテーション時に伝える他、具体的に理解できるような説明に努めているので学習の指針になっていると思われるが、認識には個人差がある。	特記事項なし	・理念・目的は明確に提示されており、問題ないと思われる。
2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている	2.6			
3 本学院の教育上の特色を明示している	3.0			

II 教育目標

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 理学療法、作業療法実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	教育目標は、実践者および学習者の両側面から設定されており、教育理念・教育目的と一貫性がある。教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性があり、設定した教育内容を概ね網羅しているが、一部実現可能かの判断が難しい科目もある。	特記事項なし	・目標は細かく具体的である。 ・実現可能な教育目標は、教える立場からのもので、受け手の認識を反映しているものか否かが問題である。
2 教育目標は、設定した教育内容を網羅している	2.9			
3 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている	2.5			
4 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある	3.0			

III 教育経営

III-1 教育課程編成者の活動

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している	2.4	教育課程と授業実践、教育の評価との関連性について理解に努めているが、教職員全体が明確に理解しているとは言えない。また、教育理念・教育目標の達成に向けて、一貫した活動を行えるように努力しているが、教員間で十分な共通認識が得られているとは言えない。	特記事項なし	・異動職種であるがゆえ、教員の理解の差や共通認識を得られにくいなどの不利益が毎年繰り返されている。教員一人一人の負担が大きいのではないかと。
2 教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.5			

III-2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 理学療法、作業療法学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.7	明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成しているが、各教員が十分に理解しているとは言えず、編成内容について検討の余地がある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。

III-3 科目、単元構成

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.7	考え方と根拠をもって科目を構成しているが、教員の異動等により曖昧になることがあるため、話し合いを重ねている。単元については、明確な考え方と根拠をもって構成するよう努めているが、科目によって改善の余地がある。科目と単元の構成が教育理念・目的、教育目標と整合性を持つよう改善に取り組んでいるが、まだ全科目に至っておらず不十分な科目もある。構成した科目は、PT・OTを養成するのに妥当と思われるが、社会情勢の変化への対応という観点ではさらに検討を要する。また、本学院の特徴を表しているが、検討を要する科目もある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.5			
3 科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある	2.5			
4 構成した科目は理学療法士、作業療法士を養成するのに妥当である	2.9			
5 構成した科目は本学院の特徴を表している	2.7			

III-4 教育計画

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位修得の支援となっている	2.6	単位履修の方法とその制約については学生便覧等に示されており、オリエンテーション時に説明している。シラバスに学習方法及び配点を詳細に明記しており、以前に比べて改善しているが、学生の理解は不十分であり、単位修得の支援には至っていない。科目の配列は学修の質を維持できるように考慮しているが、関連性や順位性については調整が難しい科目もある。カリキュラムの内容について学外の関連分野関係者と連携し検討しているが、新たなカリキュラムの作成・見直しには至っていない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2	理学療法士・作業療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている	2.6			
3	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	2.7			

III-5 教育課程評価の体系

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位認定の基準は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.9	単位認定の基準は明確であり、妥当と思われる。科目によっては議論を要する場合もあるが、基準に基づき十分に検討した上で単位認定するように努めている。また、他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えており、単位認定が行われている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2	単位認定の方法は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.7			
3	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.0			

III-6 教員の教育・研究活動の充実

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.2	教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数の配分を調整しているが、人事において専門性が重視されていないため、十分ではない。管理・運営に関する業務量が多いため、授業準備に十分な時間を取ることができない。自己研鑽のシステムはあるが、個人の意思に委ねられている。利用されることは少なく、十分に機能しているとは言えない。研究授業や教授方法の検討など相互研鑽の機会を設けているが、時間的な制約もあり頻度が少ないため十分ではない。	・学事予定および教育計画に従って、計画的な業務遂行を図る(OT)。	・授業準備のための時間に関する自己評価が極端に低い。 ・教員の授業外の業務量が多すぎる。働き方改革が求められており、余裕を取らせる必要がある。無用の会議をなくすべき。 ・教員の業務量が多いところの改善のため、事務作業を補助して頂ける非常勤事務員の採用を検討してはどうか。
2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	1.3			
3	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.5			
4	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.3			

III-7 学生の理学療法、作業療法実践体験の保障

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	臨床実習施設は、本学院の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか	2.3	本学院の教育理念・教育目的、教育目標は、実習の手引に明示し、実習指導者説明会でも周知に努めているが、実習施設・実習指導者により理解の差がある。臨床実習施設は臨床教育体制を整えている。指導者の役割は実習の手引に記載するとともに説明会を実施して説明しているが、昨今の実習形態の変化に伴い、役割について不明確な点もある。学生指導に関しては、状況に応じて連絡を取り合い、臨床実習訪問を行う等の協働体制を整えている。対象者の権利に関しては、臨床実習に向けてのオリエンテーションや個人情報保護法の説明を行うとともに、実習の手引に明示して伝達している。学生が関係する事故に関しては、ヒヤリハット報告書を作成して状況を把握し、原因を分析して対策を講じるとともに、学生にも周知している。安全対策に関しては、リスク管理・感染管理に関する講義を実施し、臨床実習に際しては実習の手引に明示し、オリエンテーション時に説明するなど、計画的に指導している。	特記事項なし	・臨床実習指導者への教育理念、目的、目標の周知は、実習地訪問や新カリキュラムの実習指導者会議などで図るとよいと考える。
2	臨床実習施設は学生の理学療法、作業療法実践の学習を支援する体制を整えているか	2.9			
3	臨床実習指導における学生の学びを保障するために、臨床実習指導者の役割を明確にしているか	2.9			
4	臨床実習指導者と教員の協働体制を整えているか	2.8			
5	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示しているか	3.0			
6	臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析しているか	3.0			
7	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか	3.0			

#### IV 教授・学習方法

##### IV-1 授業内容のまとまりの考え方

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.7	授業内容は、教育課程との関係において当該学生のために設定されているが、学科内での検討課題は残されている。授業内容のまとまりについて学科内あるいは教員間では話し合っているが、十分とは言えない科目もある。授業内容間の重複や整合性、発展性等に関しても、学科内で検討を続け改善を図っているが、未だ明確になっていない部分があり、引き続き検討が必要である。	特記事項なし	・常に改善(検討)を図り取り組んでいる。
2 授業内容のまとまりは、理学療法、作業療法学の教育内容として妥当性がある。	2.6			
3 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている	2.3			

##### IV-2 授業の展開過程

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.7	授業内容の形態は各教員に任されており、授業内容に応じた選択に努めている。教員間で検討する場合もあり概ね適切と思われるが、検証はされていない。各学年における支援の他、学年間での取り組みも実施するなど、学生の状況に応じた学習支援に努めている。個別対応は担当教員に任せられており、十分とは言えない面もある。効果的な教育・指導を行うために、教員間で情報共有し、コミュニケーションに努めているが、明確な協力体制とまではなっていない。	・教授方法向上のため、授業方法の見直し;グループワークの見直しを継続する(PT)。 ・理学療法技術(特に検査、評価技術)の向上に向けて取り組みを継続する(PT)。 ・効果的な授業展開や評価方法の検討を継続する(OT)。	・教育課程編成委員会での取り組み、学会報告など、常に努力していると思われる。
2 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.7			
3 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.6			

##### IV-3 目標達成の評価とフィードバック

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 評価計画が立案・実施され、評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	2.3	学生による授業評価を実施し、学科内でも検討している。教員は個々に改善に努めているが、個人に任せられており状況の確認には至っていない。多面的な評価に努めているが、実際の評価方法については検討が必要である。評価基準と方法はシラバスに示しているが、明確でない科目もある。検討を要する場合は公平性を保つよう努めているが、検討が必要などところもある。	臨床実習前後の学生能力評価について検討する。 ・理学療法評価技術の内容および評価方法など(PT)。 ・能力評価をする評価技術項目や方法の検討(OT)。	・時間を要する大変な作業であり、効率化を図る必要がある。 ・他の養成校教員とディスカッションする機会があると業務のスリム化の手がかりがつかめるかもしれない。
2 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	2.4			
3 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し、単位認定の評価には公平性が保たれている	2.7			

##### IV-4 学習への動機づけと支援

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 シラバスの提示は、本学院全体としての一貫性があり、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.7	授業初回や途中において授業目標を確認し、発展性を持たせるようにしている。評価方法を具体的に明記するなどシラバスの内容の改善を図ることで学生の学習動機づけの一助となっている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。

## V 経営・管理過程と財政

### V-1 設置者の意思

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 本学院の管理者(主事以上)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している	3.0	本学院の教育理念・教育目的は、学生便覧等に明示されており、業績評価の病院目標及び学院目標にも反映されている。管理者による教育課程経営や管理運営等についての考え方の明示は十分でなく、設置者の考え方を理解するには至らない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2 本学院の管理者(主事以上)は教育課程経営についての考え方を明示している	2.6			
3 本学院の管理者(主事以上)は本学院の管理運営等についての考え方を明示している	2.6			
4 教職員は本学院の設置者(機構)と管理者(主事以上)の考え方を理解している	2.5			

### V-2 組織体制

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 本学院の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている	2.9	職位階制をとっており、その役割は比較的明確になっている。意思決定システムとして、学科内会議、教員会議、学院運営会議が設けられており、意見を述べられる環境はつくられている。教職員の資質向上にむけてFD活動を実施しているが、教育理念・教育目的達成の整合性は十分でない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている	2.7			
3 教職員の資質の向上にむけての施策には教育理念・教育目的達成の整合性がある	2.5			

### V-3 財政基盤

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2.5	財政基盤確保についての考え方は明確であるが、病院との関係において独自の配慮が必要である。財政基盤の成り立ちについては、幹部会議、管理会議、診療会議、その他決算報告等の報告や資料で理解に努めているが、十分でない。教職員の意見は学院運営会議で出すことはできるが、それぞれの観点からの意見とは言いがたい。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2 教職員は、本学院がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	2.4			
3 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている	2.4			

### V-4 施設設備の整備

点検内容	自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1 学習・教育環境の整備について、管理者(主事以上)の考え方を明示している	2.7	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方は明示されているが、設備更新や建て替えなどの将来展望としては不明確である。教育機器に関しては、収支の関係を考慮する必要があり、計画的な整備は難しい。可能な範囲で実施するため、指定規則で提示されているものは概ね整備されているが、老朽化した教育機材の更新や学生寮の整備が進んでいない。現在の設備を有効活用できるよう、整備に努めている。防災に関しては、東名古屋病院の防災マニュアルを置き、防災訓練にも参加しているが、リハ学院独自の防災体制の整備は不十分である。	特記事項なし	・老朽化し厳しい財政の中で体制の充実に取り組んでいる。 ・財政基盤や施設整備については、臨床との共同研究や同窓会による寄付等、様々な方向性を探っていくとよいと考える。
2 管理者(主事以上)の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している	2.5			
3 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している	2.4			
4 防災に対する体制を整備している	2.4			

## V-5 学生生活の支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	2.7	学生生活の支援として、健康管理、寮生活の支援、奨学金利用の手続き、専門実践教育訓練給付金利用の手続き等を行っているが、施設設備や図書整備は不十分である。現在実施している支援は活用されており、学習の継続を助けている。学生の理解には差があるため、随時オリエンテーションを実施し、活用を促している。	・情報共有の充実;ミーティング、情意面における評価指標の利用、学年を越えた情報交換(PT)。 ・学生の計画的な学習時間の確保や健康管理を図る(PT)。 ・情報提供方法の充実;学年を越えた情報交換の取り組み(OT)。	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.6			

## V-6 本学院に関する情報提供

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている	2.8	定期的な情報提供や必要に応じた個別連絡等を行っており、保護者からの協力・支援を得ることにつながっていると思われる。	・保護者への案内送付および電話での情報提供と支援依頼を継続する(OT)。	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている	2.6	理学療法士、作業療法士を養成する機関として、病院ニュース、年報、ホームページ、パンフレットの配布、学院説明会、進学ガイダンス等で広報活動を行っているが、受験者数には反映されておらず、十分とは言えない。		
3	理学療法士、作業療法士を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている	2.7			

## V-7 本学院の運営計画と将来構想

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している	2.4	計画的な運営を目指しているが、将来構想が不明瞭なため長期計画の立案は難しい。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

## V-8 自己点検・自己評価体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している	2.6	自己点検・自己評価を実施する体制を整え、改善点を見直しながら運用しており、教員の理解は進んでいるが、未だ十分ではない。評価結果について話し合い、次年度の改善へ向けた方針を作成している。実施は各教員の意識と努力に委ねられており、カリキュラム運営や授業実践へのフィードバックとして機能しているとは言い難い。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	3.0			
3	自己点検・自己評価は、本学院のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している	2.6			

## V-9 法令等の遵守

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	3.0	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされている。個人情報保護方針を明示し対策をとっている。教員が研修を受け、学生にもオリエンテーション等で周知を図っている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	3.0			

## VI 入学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・目的との一貫性から入学者選抜についての考え方が述べられている	2.7	入学者選抜には、教育理念・目的を念頭に臨んでおり、アドミッションポリシーを示している。入学者状況や入学者の推移について分析・検証されているが、入学者選抜方法の妥当性や教育効果の分析については検討が必要である。	入学者選抜方法を検討する(PT・OT)。	・入学者の選抜方法の妥当性や教育効果の視点は不足していると自己評価されており、今後取り組まれる課題と思われる。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の観点から分析し、検証されている	2.5			

Ⅶ 卒業・就職・進学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている	2.5	卒業時の到達状況は、期末試験と臨床実習Ⅲの結果から総合的に判断している。臨床実習前後の評価を導入したが、卒業試験等は実施しておらず、到達状況の捉え方には不明確な部分もある。卒業前の技術試験を行うなど部分的な分析は行っているが、総合的な把握に留まっている。就職、進学状況は把握しているが、十分な分析には至っていない。機構への就職率等は目標との整合性が認められるが、その他の就職状況の分析は不十分なため整合性の確認に至っていない。卒業生に関しては、教員が同窓会の運営に参加し研修会等を実施しているが、学院が主催の卒後教育を含めて組織的な体制は検討が必要である。	・卒業時の到達状況を捉え、授業や学生対応などを見直す(PT)。	・分析が不十分な印象を受ける。 ・現在実施している同窓会研修会など卒後教育のさらなる充実が望まれる。
2	卒業時の到達状況を分析している	2.3			
3	卒業生の就職・進学状況を分析している	2.4			
4	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある	2.4			
5	卒業生への支援体制がある	2.4			

Ⅷ 地域社会／国際交流

Ⅷ-1 地域社会との連携

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	1.5	地域のニーズの把握は不十分である。学院祭や公開講座を通して地域との交流を図る他、授業の演習や学生ボランティアなどの活動はあるが、何れも組織的とは言い難く、その貢献度は不明確である。ホームページや学院祭・公開講座を通して情報を発信しているが、受験生を対象とした情報であり、地域社会を対象とした内容とはなっていない。地域における諸資源に関しては、学生が老健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護用品ショップ、福祉工場、作業所などの見学を学習・教育活動に取り入れているが十分とは言えない。	・地域ニーズの把握方法を検討する(OT)。	・地域ニーズの把握が不足している。 ・病院訪問や指導者研修などで地域ニーズを把握することはできないのか。 ・地域ニーズの把握まで手が回っていない印象を受ける。 ・地域連携室との交流をさらに図れるとよいかと考える。 ・東名古屋病院リハ部では、地域サロン活動の講師としてH31年度は4回(3名)派遣している。身近な場として同行し、報告会を行うなどすることで、地域包括システムの一部の理解ができるのではないかと考える。
2	理学療法、作業療法教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	2.2			
3	本学院から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	2.3			
4	地域内における諸資源を本学院の学習・教育活動に取り入れている	2.3			

Ⅷ-2 国際交流

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している	2.2	災害活動の講義や海外派遣経験者による講義を取り入れたが、授業科目の設定はしていないため不十分であり、さらなる検討が必要である。国際的視野を広げるため外国雑誌を置き、検索環境も整備しているが、活用までには至っていない。	特記事項なし	・国立病院機構内で、海外で活躍した療法士と交流をはかれるとよいかと考える。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	2.0			

Ⅸ 研究

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している	1.6	財政的な環境は保障されているが、時間的、環境的保障が十分ではないため活用されていない。学院内での予演会の実施と演題発表が助言・検討の場であるが、研究活動自体を継続的に助言・検討する体制は整備されていない。教育や管理・運営業務に重点が置かれ、研究の優先度は低い。教員相互で支援し合い、総合医学会などで毎年発表しているが、研究に価値を置いているとは言い難い。	特記事項なし	・研究の時間と環境が十分でない。 ・教員にゆとりと時間を与えるべき。 ・現状の厳しさから、働き方改革の影響も今後さらにあると思われる。 ・研究活動の時間確保のために、委員会を一つでも減らすべきであり、非常勤事務職員の確保が望まれる。 ・東名古屋病院や国立病院機構病院との共同研究など検討材料になるかもしれない。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	2.4			
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が本学院にある	2.0			